參考文獻

壹、中文文獻（依作者姓氏筆畫數排序）

1. 小坂井久講，陳思帆譯，審判中辯護人之角色與活動，司法週刊第1911 期司法文選別冊。
2. 林信旭，刑事準備程序之爭點整理以「國民參與審判法草案初稿」為中心，月旦裁判時報 75 期（2018.9）。
3. 張永宏，論刑事準備程序之運作（上）–以人民參與審判為核心，月但裁判時報 41 期（2015.11）。
4. 張永宏，論刑事準備程序之運作（下）–以人民參與審判為核心，月但裁判時報 42 期（2015.11）。
5. 稗田雅洋演講，邱鼎文譯，公判前整理程序及審判中法院、法官之角色與活動，司法週刊第 1911 期文選別冊。
6. 濵田毅著，邱鼎文譯，公判前整理程序及審判中檢察官之角色與活動，司法週刊第 1911 期文選別冊。

貳、日文文獻（依作者姓氏五十音排序）

一、專書

1. 池田修・合田悦三・安東章『解説 裁判員法—立法の経緯と課題（第 3 版）』弘文堂（2016）。
2. 杉田宗久『裁判員裁判の理論と実践』成文堂（2009）。
3. 高野隆・河津博史『刑事法廷弁護技術技術』日本評論社（2018.2.20）。
4. 松尾浩也監修、松本時夫等編『条解刑事訴訟法（第 4 版増補版）』（2016.12.15）。

二、政府出版品、資料

1. 最高裁判所事務総局『裁判員制度実施状況の検証報告書』（2012.12）。
2. 「裁判員制度の運用等に関する有識者懇談会」（2011 年 10 月 5 日開催）議事概要。

3. 「裁判員制度の運用等に関する有識者懇談会（第 30 回）（平成 30 年 5 月 31 日開催）」議事概要。

三、期刊文獻

1. 秋山敬「争点整理・証拠厳選等に関する諸問題（上）」公判前整理手続に関する諸問題⑧[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1311（2010.2.1）。
2. 秋山敬「争点整理・証拠厳選等に関する諸問題（下）」公判前整理手続に関する諸問題⑨[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1313（2010.2.15）。
3. 芦澤政治「公判準備と公判手続の在り方」論究ジュリスト 2 号（2012）。
4. 飯島健太郎・三橋泰友「証拠調べ一般（上）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1398（2014.5）。
5. 飯島健太郎・三橋泰友「証拠調べ一般（下）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1399（2014.6）。
6. 石井一正「わが国刑事司法の改革と変容」判例タイムズ 1365 号（2012.4.15）。
7. 石川恭司・宇田美穂「裁判所の基本的スタンス（1）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1394（2014.1）。
8. 今崎幸彦「『裁判員制度導入と刑事裁判』の概要」：裁判員制度にふさわしい裁判プラクティスの確立を目指して，判例タイムズ No.1188（2005.11.15）。
9. 石川恭司・宇田美穂「裁判所の基本的スタンス（2）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1395（2014.2）。
10. 岩倉広修・三輪篤志「自白の任意性が問題となる事案の審理計画・審理の在り方」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1411（2015.6）。

11. 遠藤邦彦「類似事実に関する証拠の許容性、関連性、必要性の判断基準」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズNo.1419（2016.2）。
12. 大寄淳・福家康史「審理期間・審理計画の策定（一般）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズNo.1407（2015.2）。
13. 岡田悦典「統合捜査報告書と合意書面」季刊刑事弁護 70 号。
14. 小野慶二「メモの証拠能力」河村澄夫ほか編『刑事実務ノート（第 1 巻）』（判例タイムズ社）（1968）。
15. 河津博史「弁護人の冒頭陳述・最終弁論のあり方」季刊刑事弁護 43 巻（Autumn 2005）。
16. 河原俊也・岡崎忠之「争いのある事件についての争点整理の在り方（1）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズNo.1392（2013.11）。
17. 河原俊也・岡崎忠之「争いのある事件についての争点整理の在り方（2）」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズNo.1393（2013.12）。
18. 河本雅也・大西直樹・小野寺明「『模擬裁判の成果と課題』について　裁判員制度にふさわしいプラクティスの確立に向けた取組みの現時点での到達点」判例タイムズNo.1287（2009.3.15）。
19. 清野憲一「裁判員裁判における検察官から見た弁護活動」（前編）（講演録）NIBEN Frontier（2015 年 7 月号）。
20. 清野憲一「裁判員裁判における検察官から見た弁護活動」（後編）（講演録）「NIBEN Frontier」（2015 年 8・9 月合併号）。
21. 後藤貞人「証拠調べのあり方」（特集）裁判員裁判を活かす公判前整理手続，季刊刑事弁護 No.78（summer 2014）。
22. 小倉哲浩・久禮博一「自白事件における争点整理の在り方，争点整理の結果確認の在り方」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]判例タイムズNo.1400（2014.7）。
23. 小坂井久「主張明示義務と黙秘権」季刊刑事弁護 41 号（Spring 2005）。

24. 小阪敏幸執筆，河上和雄・中山善房・古田佑紀・原田國男・河村博・渡辺咲子〔編〕，青林書院，「大コンメンタール刑事訴訟法【第二版】第７巻 （第 316 条の 2～第 328 条）」。
25. 酒巻匡「裁判員制度と公判手続」ジュリスト No.1370（2009.1）。
26. 指宿信「プレゼンテーション」（特集）公判弁論技術としての証拠法－裁判員裁判を契機として変わるか，季刊刑事弁護 No.70（Summer　2012）。
27. 杉田宗久「公判前整理手続における『争点』の明確化について一被告人側の主張明示義務と争点関連証拠開示の運用をめぐって一」判例タイムズ No.1176（2005.6.15）。
28. 杉田宗久「裁判官の尋問のあり方を考える―後藤・秋田両弁護士のご批判をお答えしつつ」季刊刑事弁護 46 号（2006）。
29. 高平奇恵「公判前整理手続の目的と限界―争点の整理と証拠の厳選に着目して―」、刑事訴訟法理論探究・6、法律時報 85 巻 2 号。
30. 田淵浩二「証人尋問の際の被害再現写真の利用が適法とされた事例」法学雑誌,新・判例解説 Watch 10 号（2012.4）。
31. 田淵浩二「証人尋問における「視覚的補助」の利用可能性」法学雑誌 58・3・4 （2012.03）。
32. 出口博章「尋問の関連性について」証人尋問、被告人尋問に関する諸問題③[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1318（2010.5.1）。
33. 細谷泰暢「尋問の際の動作による再現」証人尋問、被告人尋問に関する諸問題②[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1318（2010.5.1）。
34. 長井秀典「公判前整理手続の運用の現状と課題」判例タイムズ No.1294（2009.6.15）。
35. 鯰越溢弘「裁判員制度の現状と課題―共謀共同正犯事件の立証方法の問題点―」大分大学経済論集第 62 巻 5・6 号。
36. 橋本一・坂本好司「冒頭陳述と論告・弁論」判例タイムズ

No.1402（2014.9）。
37. 平野龍一「参審制採用による『核心司法』を—刑事司法改革の動きと方向」ジュリスト 1148 号（1999 年）。
38. 松尾浩也「刑事裁判と国民参加　裁判員法施行一年の日に」判例タイムズ No.1329（2010.10.15）。
39. 松尾浩也「刑事裁判と国民参加　日本における 150 年」判例タイムズ No.1373（2012.8.15）。
40. 緑大輔「公判前整理手続と当事者主義　争点の設定と証拠の厳選」（特集）公判前整理手続を検証する，季刊刑事弁護（No.60 Winter2009）。
41. 村岡啟一「合意書面の功罪」季刊刑事弁護 No.46（2006.4.10）。
42. 村越一浩・坂口裕俊「精神鑑定が問題となる事案の審理計画・審理の在り方」裁判員裁判を巡る諸問題[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1414（2015.9）。
43. 山根治「記憶の明らかでない証人に対し書面等を示してする尋問」平野龍一他編『実例法学全集刑事訴訟法［新版］』（青林書院）（1977）頁 238、242。
44. 横井朗「裁判員裁判の実施状況と検察の取組み」慶應法学 22 号（2012）。
45. 渡部市郎「尋問における書面等の提示と証拠制限規定（刑訴法 316 条の 32）との関係」証人尋問、被告人尋問に関する諸問題①[大阪刑事訴訟実務研究会]，判例タイムズ No.1318（2010.5.1）。

參、英文文獻

1. Michael Osborn, Randall Osborn, Suzanne Osborn, Kathleen J. Turner. Public Speaking: Finding Your Voice 10th Edition(Kindle Edition).